

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
〒606-8202
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3210

会長に選出されて

洛友会会長 長尾 真 (昭34年卒)



これまで長期にわたり会長を勤め、洛友会の発展に尽力して来て下さった近藤文治先生が会長を退かれることになり、本年6月18日に開かれた洛友会総会にて、私が後任として選出されました。会長の大役が勤まるかどうか分かりませんが、力を尽くして皆様方のお役に立ちたいと思っておりますので、よろしく願ひ申し上げます。

時代の変化と洛友会

洛友会は長い歴史を持ち、私どもが学生だった頃は大学とともに

洛友会の皆様にも、卒業の際のお別れパーティー(当時は余銭会と謝恩会の2つがあった)やその他の機会にお世話になったわけですが、最近では学生数も増え、時代も変わって、先生と学生の間、洛友会と教室の間の関係も昔のようではなくなってきました。

しかし、国立大学が自立した法人となり、全てのことにより責任であたらねばならなくなりました。と、大学における学生の教育以前にも増して力をそそがねばならないということがよく認識されるようになったこと、さらに大学と社会との関係がこれまで以上に密であることが期待されていることなどの変化があり、これまでのような大学と洛友会のあり方を考えなおすべき時に来ていると考えられます。

洛友会では既にそのような認識

のもとに、会長の近藤文治先生、幹事の木村磐根先生を中心に、洛友会のこれからのあり方を検討するワーキンググループが作られ、この会報にも検討の概要が報告されていますように、何度か会合を重ね、方向性が示されつつあります。

電気系情報系教室と

洛友会の協力

このような検討を通じて出されてきた考え方の一つは、電気系情報系教室と洛友会がより密接に連携しているような活動をしていくことであります。私達の学生の頃の電気教室と洛友会の関係とは少し違って、現代の社会と大学との関係の主旨を十分にふまえた関係を目指すことであります。幸い電気系情報系教室の方も現在工学部長の要職にある荒木光彦先生をはじめ、教室主任その他の先生方も、この考え方に賛成され、いろいろと洛友会の発展のために手をさしのべて下さることになり、ありがたく存じているところであります。

活動の方向

ところで、この新しい時代における洛友会の目的は何か、我々のやるべきことは何かについて、ここで少し考えてみたいと存じます。私は以下に記しますような幾つかの課題があるのではないかと存じます。

(1) 洛友会の第一の目的は電気

系学科卒業生の親睦にあることは疑いを入れません。社会、企業など、日本中のいろいろなところで活躍しておられる卒業生の皆さんがお互いに知り合い、親睦をはかることが、それぞれの職場における活動、物の考え方等に大きな貢献をすることは間違いないことであります。しかしこれに気付いて洛友会に出席しようかと思うようになるのは50歳を過ぎてからというのは誠に残念なことでありまして、30代の後半から40代の人生において最も活躍する年代の人達にこれをよく認識してもらうことが大切であります。この年代は最も忙しい年頃であることは事実ですが、いろいろな工夫をして魅力のある企画を考え、こういった人達に出席しようと思ってもらう努力が必要です。そうすれば洛友会への会費の納入率も改善されてゆくでしょう。私も考えますが、よいアイデアがありましたらぜひご提案下さるようお願い致します。

(2) 京都大学の電気系情報系教室は教育研究において日本トップに位置して活躍しておられ、最近では文部科学省のセンター・オブ・エクセレンスに指定されています。また産学連携にも積極的で、副学長をしておられる松重和美教授などを中心としているような活動が行われております。私ども洛友会もこういった電気系教室の活動に対していろいろな形で側面的な支援をしてゆくことが大切と考えます。そうすることによって電気系情報系教室がますます発展し、そこから輩出される洛友会会員も社会で大きく活躍されることになるからであります。私どもが今日あるのも京都大学電気系情報系教室のおかげと考えて、恩返しを少しでもするべく活動することが大切であります。その具体的な方法にはいろいろな形がありますが、これについても皆様方からのご提案を期待したいと存じます。

(3) 京都大学の学生は世間という、社会をあまりよく知らない、チャレンジ精神が少し足りないのではないかと言われたりしております。洛友会の諸氏の中にはチャレンジ精神の旺盛な方も多くいらっしゃると思いますし、若い後輩にいろいろと社会のことを教えてやろうという気持ちを持っておられる方もいらっしゃるかと存じます。電気系教室の先生方とよく相談して、社会の風を学生諸君に吹き込むような企画を考へることも有効ではないかと考えております。

以上、思いつくままにいろいろと述べましたが、皆さんからのご意見を積極的に寄せていただき、副会長、幹事、各支部の役員の皆様方とよく相談しながら洛友会の活動を進めてゆきたいと考えております。ぜひともよろしくお願ひ申し上げます。

平成17年度懇話会の開催(二)案内

電気系教室では在校生と卒業生の親睦をはかり、在校生に先輩からのメッセージを伝えて激励をするため、例年、懇話会を開催してきております。本年度からは教室と洛友会の関係をさらに強化して、懇話会を両者で共催することになりました。また、長尾前総長が洛友会会長に就任されたことでもあり、名誉教授側からは長尾先生(昭34年卒)、企業関係側からは松田氏(昭43年卒)と田邊氏(昭44年卒)の3名を講師としてお招きし、次のようなプログラムでご講演をさせていただくことに致しました。会員の皆様には奮ってご参加をいただき、この機会にぜひ在校生や教職員との親睦を深めていただければ幸いです。

(学科長 橋、専攻長 小林、石川、吉田)

日時 平成17年11月11日(金) 午後2時00分～7時30分
場所 桂キャンパスBクラスター・桂ホール/カフェ・アルテ

講演会プログラム

2時00分～2時45分(45分)

田邊 輝義氏(株ビスキヤス)

2時45分～3時30分(45分) 「固体絶縁超高压ケーブルの開発沿革と今日の事業課題」

松田 晃一氏(NTTアドバンステクノロジ株)

「情報システムの研究開発、今と昔」

3時30分～3時45分(15分) 休憩

3時45分～5時15分(90分)

長尾 真先生(独情報通信研究機構)

「研究生活40年」

5時30分～7時30分

懇親会(桂キャンパスカフェ・アルテ)

(会費 社会人 3,000円、学生 無料)

(注)桂キャンパスへのアクセス 阪急桂駅西口から市バス西6系統 または京阪京都交通バスにて京大桂キャンパス前下車(約15分)

連絡先 橋 邦英 075-383-2286

石川順三 075-383-2272

会員寄稿

技術者の倫理

橋本 道哉(昭33年卒)

1. 社会情勢

最近JCOの臨界事故から始まり、雪印、日本ハム、東京電力、三菱自動車、JR西日本の脱線事故、つい最近のアスベストや談合問題

等、企業の事故、不祥事が絶えない。その結果、企業には自分の利益だけ追求するだけではなくCSR(企業の社会的責任)、コンプライアンス、企業倫理が強く求められるようになってきた。

一方、独立して働く技術者や企業内の技術者個人にも、技術力だけでなく技術者の倫理が求められるようになったが、日本の実情は欧米に比べて遥かに遅れている。アメリカの大学の工学部では技術者の倫理は必修科目であるのに、日本の大学では選択科目にすらなっていない。私たち日本技術士会の翻訳グループの有志は、平成10年9月に、アメリカの大学で参考書として使用され、非常に評判のよいハリス著の『科学技術者の倫理』を丸善から翻訳出版した。日本ではこの種の書籍は初めてであり、先導的な役割を果たして来たと思われる。ちょうどその頃、JCOの臨界事故を手始めに、技術者の倫理の欠如に起因する不祥事が続発し、技術者の倫理の必要性が認識され始めていた。機械学会を始め学会、協会、企業等の団体でも技術者の倫理規程を制定し始めた。

2. 技術者倫理の必要性

技術が道具だけであった過去において、それは目的を他者に仰げばよかった。しかし今技術その物が支配するという環境と化し、巨大な能力と化し、さらに全人類の行為そのものとなり、自ら目的

をもたないエネルギーを秘めている制御ができない巨大な乗物となっている。技術は今や自らが何を

も生み出し、何を破壊しようという強大な力そのものと化している。これをいかなる目的に使うべきであるか。これによっていかなる目的を実現すべきであるか。つまり人類がこの巨大な能力を秘めた技術の目的を選定すべき時に至っている。今までに手段的道具としての技術の完全化と機能性の向上しか狙わなかった技術は自ら目的を問わなくてはならなくなっている。ここにおいて善悪を真剣に問われなくてはならない。すなわち強大化された技術の存在が自ら倫理を課題とせざるをえなくなっている。技術の発展は人類に大変多くの幸せをもたらした反面、戦争や交通災害等で多くの不幸をもたらしている。例えば、20世紀中の戦争や交通災害による不慮の死を遂げた人は、人類の有史以来19世紀までの不慮の死者の合計を遥かに上回っている。

我々を取り巻く全ての生活環境が科学技術の影響を大きく受け、いわゆる技術に支配された世界となっている。

このような環境において技術者は、自らの専門職としての技術力はもちろんのこと、公益や利益に対する責任を活動の前提とする旨の「高い職業倫理」が求められている。まさに技術と倫理が車の両輪のごとく要求されているのである。

3. 倫理規程の必要性

欧米では聖職者、医師、法律家に代表されるような高度の専門知識と技術を持つプロフェッション(民衆に対する指導的な立場を意味する専門職)の存在を認め育ててきた。専門職の一員になるためには、長期に亘る専門的教育と厳しい訓練を受け、客観的な方法で自らの能力を証明しなければならぬ。ひとたび、専門職として認知されると他の職業では得られないような高い報酬と特権が与えられる。しかし他の人にはできない、かつ社会や個人の健康や安全、福利の維持と向上に不可欠なサービスを責任を持って行わなければならないのである。すなわち、高度技術社会における技術者のプロフェッショナルとしての責任とモラル・オートノミ(道徳的自律)が課せられるのである。この互恵的な関係を維持するために専門職は厳格な倫理規程を構築する。現在では技術者も専門職として倫理規程を持って上記のようなノブレス・オブリージュに応えなければならぬ環境になっている。この「高い職業倫理」を文書化して規定化したものが「技術者倫理規程」であり、一般の道徳倫理とはまったく異なるものである。

技術者の社会に対する影響力にかんがみ、各人の採る行動は倫理的でなければならぬが、そのためにはまず、倫理的な行為と非倫理的な行為の判別ができればならない。その判別は一般常識あ

るいは良識により可能な場合もあるが、総じて、合法と非合法の判別よりも遥かに難しい。判別思考の出発点として技術者倫理規程に基づくべきであろう。

4. 技術者倫理規程

色々な団体が独自の倫理規程を制定しているが、その中で最も汎用性が高いものとしては、全米プロフェッショナル・エンジニア協会（NSPE）で1996年に制定された技術者倫理規程である。その前文と基本規範だけ紹介しておく。

NSPE倫理規定 1996年版

前文

技術者は、重要で学術的な専門職業である。この専門職業の一員として、技術者は、正直および誠実の最高の基準を示すものと期待されている。技術者は、すべての人にとって、生活の質に直接的かつ重大な影響力がある。したがって、技術者が提供するサービスは、正直、不偏性、公平性、および公平が必要であり、公衆の健康、安全および福利の保護に捧げられなければならない。技術者は、最高の倫理的行動原理の遵守を要求する専門職業の行動基準のもとに、それを遂行しなければならない。

I. 基本的規範

技術者が自らの専門職業義務の遂行において、しなければならないことは以下の通りである。

1. 公衆の安全、健康、および福利を最優先にする。
2. 自らの有能の領域においてのみ、サービスを遂行する。
3. 客観的かつ真実に即した方法においてのみ、公的な言明を行う。
4. それぞれの雇用者または依頼人のために、誠実な代理人または受託者として行為する。
5. 欺瞞の行為を回避する。
6. 自らが名誉を重んじ、責任を持ち、倫理的に、そして適法に身を処することにより、専門職業の名誉、名声、および有用性を高めるように行動する。

II. 実務の原則

以下略す

一番目の規定によれば、技術者は『公衆の安全、健康、および福利を最優先する』義務がある。『最優先』とはいえ、文字通りの最優先というわけにはいかない。というのは、企業や行政機関などの組織に属して働く技術者の場合、4番目の規定によって『雇用者』のために『誠実な代理人』として行為するという、雇用者に対する義務がある。この二つの義務が両立すればよいが、そうではなくて、公衆に対して義務を負う技術者と、雇用者に対して義務を負う被用者としての立場とが食い違うことがあり、『利害関係の相反』が発生する。

有効な除去は現在の技術と工場の採算性の範囲では不可能である場合は、2つの要求の間で、技術者の採るべき対策に『利害関係の相反』が生じる。

5. 倫理性の判定
倫理的と非倫理的の判定についてはいくらかの手法があるが、適切な解決方法に至るのは容易ではなく、結局は自分の技術的感性よらざるを得ない。日頃から事例を幅広く勉強して、思考の訓練と感性を磨くことが必要である。

ここで具体的な手法を2、3紹介したい。

第一は『黄金率テスト』というもので『他人からしてもらいたいと思うことを、人にもしてやりなさい。』というキリスト教や儒教の教えに基づくものである。第二は、『自滅テスト』と呼ばれるもので、その行為を誰もが真似した場合（普遍化という）を想定し、その結果によって判断するものである。例えば、道を歩きながら空缶を他人の扉の上に置いていくのは、居住者の気持ちを考えれば倫理的でないことがわかる。また、列車待ちの列に力づくで割り込むのは、結局は全員が困ることになるので、その行為は倫理的でないことがわかる。

最後に、利害関係の相反の解決するに際して、いくつかの選択肢がある場合には、『線引き法』が中心的な解決法になる。

正しいことと不正なことが画然

と二分されて明瞭に見分けられるなら、何が不正かはつきりわかるから、人々は容易に不正を回避できる。しかし実際には、多くの場合、複数の選択肢がある。その選択肢の中で、不正と正しいことをスペクトルの両極に置き、その間に疑わしさの濃い方から薄い方へ連続的に並べていく。そうすると、スペクトルのどこかに、してよいことと、してはいけないことを分ける線を引くことができる。

6. 技術者倫理教育の方法
実践的倫理能力を育成するための教育の方法として、最も有効な手法は、倫理問題を含んだ現実的な事例を具体的に提示し、受講者に倫理的ジレンマを仮想体験してもらい、その解決方法を考えてもらう、いわゆる事例研究である。

技術者倫理教育で取上げる事例には、大きく分けて、(1)実際に起こった現実の事例、(2)仮想的な事例、(3)受講者が自分で創作する事例、の3種類がある。

7. 提言
最近では倫理感の欠如が起因する死傷事故や不祥事が減少するどころか、増える傾向にあり、連日のごとく、メディアやマスコミを賑わせている。さらに環境保全問題や遺伝子の問題も加わり、技術者の倫理の重要性が大きくなりつつある。

大学では、有名校ほど技術者倫理の教育体制の整備が遅れている

との報告が来ているが、技術者倫理は官学産の全体に亘る大きな課題であり、早急な技術者倫理の推進体制の整備が望まれる。

啓蟄（けいちつ）と倫理
平松 新（昭52年卒）

啓蟄（けいちつ）とは、暦の二十四節気（にじゅうしせつき）の3番目で、啓は『ひらく』、蟄は『土中で冬ごもりしている虫』の意である。つまり地中で冬ごもりしていた虫が春の到来を感じ、草木が芽吹くと同時に地上へ這い出してくるという意味である。

暦では、『啓蟄』が『雨水』後15日目の3月6日頃に当たるが、我が家では、5月の連休頃に当たっている。桜も見納め、汗ばむ季節になると、無性に体を動かしたくなり、それまではじっとしていた『やから（輩）』が急に動き回るようになる。部屋の掃除から始まって、書類の整理、荷物の整理、と展開していき、挙句は、納戸や倉庫の整理、部屋の模様替えと止まる所を知らない。はっと気がつくとも、毎年同じ時節に当たっている。特に決めているわけではなく、家族にもこの傾向が見られる。副次的な効果としては、年末の大掃除が極めて簡素になる。いや、世間一般とは異なって、いわゆる年末の大掃除というものが我が家には存在しないのかも知れない。せいぜい窓拭き程度で終わってしまう。

この『我が家の啓蟄』なる習慣が身に付いたのはいつだったのだろうか。はっきりと覚えていないが、自分の部屋が与えられた頃だったように思う。小学校の頃、新学年の春先になると、前学年の資料の整理や部屋の模様替え(配置転換)を行うのが嬉しかった。多分、趣味になっていたのかも知れない。中高を経て大学生になると、自分の下宿はもちろんのこと、お世話になっていた木嶋研究室や桑原研究室の居室の模様替えまでするようになっていた。模様替えといっても机の向きを変える程度ではあったが、こよなく楽しんだ記憶がある。社会人になると、年度変わり恒例の配置転換が待ち遠しく、その時機になるとまさしく「水を得た魚」のごとく走り回るなど、ますますこの習慣に磨きがかかっていった。

では、『我が家の啓蟄』が、なにより倫理問題と関係があるのか。倫理問題を意識し始めたのは、技術士資格(平成4年、情報工学部門)をいただいた頃である。国家法(技術士法)でいくつかの遵守義務(第四章)が定められているが、中でも、『秘密保持義務の遵守』が『我が家の啓蟄』に大きな方向転換を与えることになった。このように書くときと実に重々しいが、技術士法自体が重々しいので仕方がない。実際には、以前、研究ノートや資料を自他の区別無く無頓着に処分していたのを、顧客の機密情報に関連性があるかど

うか意識するようになった程度の意識変化であった。

書類の整理を行う際、新しい名簿と交換し不要になった古い名簿の処分がかなり大変である。簡単には燃えないのである。もちろん「燃えるゴミ」として廃却するのは、衆目に曝(さら)してしまい倫理に悖(もと)るのであって、この名簿のページを手で裂いて処分する必要がある。そろそろ機械式シュレッダーを使いたいと思うが、丁寧にページを裂いている時にこそお世話になった名簿や登録されている先輩、知人に思いをはせることになるので、案外私にとつて大切な時間であり、大いに楽しみである。

名簿の他にも処分義務を自ら課しているものがいくつもある。業務上顧客から預かったデータであるとか、個人情報書類である。今年の4月から個人情報保護法が施行され、データの管理義務を怠ると行政処分の対象となるようになったが、『我が家の啓蟄』では、かねてより厳格な処分を行ってきたので、慌てることはなかった。CD(コンパクト・ディスク)などに収めた顧客データは、記録面を腐食させると完全に消去できる。それには、家人からネール・ペイント除去用の有機溶剤を借りて記録面に塗れば完璧である。これは偶然にCDの盤面に書いた油性文字をはがしたところ、溶剤が多すぎて記録面にもついてしまいデータを消してしまった経験によ

る。ともあれ、倫理問題は、肉体疲労を伴うものである。

『我が家の啓蟄』の季節になると、元東大教授の竹内均先生のことばを思い出す。竹内先生といえ、サイエンス雑誌の編集長を務められるなど偉業を数多く成し遂げられているが、『我が家の啓蟄』には先生の知られざる一面が影響を与えている。あるテレビ局のインタビューに対して、「僕の書齋には意外に本がないんですよ」とお答えになったのである。つまり、常に傍に置いて使用する本は、書架に2段もあれば十分で、その他は倉庫に保管しているということであった。これには、「眼から鱗」であった。その当時は、多くの専門書を後生大事に抱えており、職場にも住居にも本が溢れていた。ところが、平成7年に神戸を襲った大震災が引き金となって、多くの本を処分することになった。雨に濡れた本もそうであるが、被災地から東大阪市に引越しを行った時に、大量の本を処分した。不思議なもので、一度処分をすることに目覚めると、それまでどうしても処分できなかったものまでいとも簡単に処分できるようになるものである。

ここで、『我が家の啓蟄』のルールが確立した。

- (1) 前年の啓蟄から1年間の間、読まなかった本や使わなかったモノは納戸へ保管する。
- (2) 前々年の啓蟄から1年間の間、納戸において喚起されなかつ

た本やモノは処分する。

まず、大所帯だった百科事典は、近所の学校に寄贈した。文庫本や流行本はすべてリサイクル専門業者へ持って行った。

不要になったものにも第二のライフサイクルが巡ってくる。インターネットの利用である。再利用可能な器材や専門書も、インターネット上で欲しい方に引き取っていただけるようになった。同時に、知りたい情報が瞬時に検索できるようなったので、百科事典の代わりとなつていく。横では子供が電子辞書を使っているが、広辞苑を始めとして、コンサイス英和、和英、仏和など20冊ほどの辞書が手帳ほどの大きさのケースに収納されている。これらの努力で事務所書架は、書籍用に2段、書類用に2段に減少した。納戸の書架は、短期保存用に5段、中長期保存用に5段となつているが、これには理由がある。

私事で恐縮だが、平成17年(2005年)の今年、子供たちの大学進学と中学進学が同時に決まった。そうなると思わなかった。大量の受験に使用した教材である。大学進学への教材は、6年後の将来再利用する場合も考慮して、ルールを少し変更して長期保存とした。中学進学への教材は、大学進学組が家庭教師用の教材として再利用されることになった。他には、満一歳になる彼らの従兄弟のために保存している絵本などもある。すなわち、『我が家の啓蟄』も世

代を越えることとなったのである。

世代を越えることと述べたが、実情は少し異なるようだ。子供たちは、やかましく言わないと片付けをしない。否、言っても片付けなくたってきた。隔世遺伝を信じて、彼らの子供たちに期待することにしてよう。

登山の楽しみ

長谷川 慎治(平6年卒)

登山は気軽に楽しめるスポーツだと思ふ。京都に住んでいたころは、登山をするには体力的にも知識的にも不十分なので、自分にはできないことだと思っていた。しかし、就職して北陸にきたときに、山が身近にあると感じた。地理的に近いだけでなく、気軽に登山している人が多いと感じた。だから、自分も登山のガイドブック片手に登ってみることにした。

最初の登山として白山に登った。学生時代の友達と二人で、ガイドブックの情報をもとに服装・靴・バッグなど必要と思われるものをそろえて、モデルコース通りに歩くことにした。10月初旬の紅葉が始まるころで、天気にも恵まれた。正午前に出発して自分達なりのゆっくりとしたペースで歩いていき、周りの木々の色が緑から赤や黄色に変わってきたころには、景色も遠くまで見渡せるようになっていた。確かに疲れも感じているが、気分がいいので足は軽やかに動いていた。

山小屋に宿泊し、翌朝まだ暗いうちから歩き始めて山頂に到着しご来光を待った。風が強くて寒い中でじっと待っていると、雲海の奥に北アルプスの山々が島のよう見え、その奥が徐々に赤から黄色へと変わっていき、太陽が昇る瞬間に金色に輝いた。この間は時間も風も止まっているように感じ、また空気が澄んでいるためなのか遠くは山が近くに見えるて幻想的な世界だった。その後は山頂の峰々を巡って下山し、ふもとの温泉に入って疲れを癒した。

この体験で登山の魅力にはまって毎年紅葉時期には登山をするようにして、翌年は西穂高岳に登り、その翌年は白馬岳に登った。白馬岳では、1日目の登りの間ずっと霧のために景色が見えなくて疲れを感じていたときに、目の前に雷鳥が現れて、私が近づくと前へ進み、私が立ち止まると雷鳥も立ち止まって、私と常に一定の距離を保って警戒しながらも、なおかつこちらにも興味も持っているようだった。それが丁度私を山頂へ誘っているかのようで、しばらくは疲れを忘れて夢中で歩くことができた。一方、二日目は快晴になり、北アルプスや南アルプスの山々更には能登半島までを眺めながら歩くことができた。

4年目からは、より遠くの山に登るようになり、4年目には八ヶ岳連邦の赤岳に、その翌年には中央アルプスの木曾駒ヶ岳に登った。木曾駒ヶ岳に登ったときには

十分な時間を取れなかったので、山麓からのロープウェイがあつて歩かなくても山頂付近まで行くことができるこの山を選んだ。紅葉シーズンのロープウェイ乗り場には観光客で長蛇の列ができると聞いていたが、大自然の中に入っていくために行列に並ぶなんて是非避けたいことなので、私たちは昼過ぎに登り始め、山荘に宿泊して翌日の昼ごろに降りる工程にして行列を避けることができた。

6年目に登った南アルプスの甲斐駒ヶ岳は、稜線や山肌の美しさで有名な山なので非常に楽しみにしていた。そして、実際に登ってみてもその期待を裏切らなかつた。登っていくにつれて、山頂付近の色や形が変化して見えるなど景色の変化が多くて退屈せずに歩くことができた。その翌年に登った会津磐梯山も山肌や風景の変化が多く退屈しない山であった。また日帰りで戻れるのでふもとの温泉も楽しむことができた。

私は全くの登山未経験者から登り始めたが、いまは登山道が整備されているしガイドブックに注意点が細かく書かれているので、安全に楽しむことができた。また、登り始めたころは山に登ることだけを楽しんでいて、下山してからの温泉を楽しむようになってきた。このように登山の楽しみにはいろいろな形があり、それにあった山も多くある。だから、山に興味がある方は是非ガイドブックを購入して、日程や自分の望むものを

を考慮したうえで気軽に挑戦してもらいたい。私も、富士山や立山などまだまだ登りたい山が残っているのので、順に制覇していくつもりである。

羊の国で

段上 玲浩(平8年卒)

9月18日

妻と初めてのニュージーランド旅行に出発だ。旅行先を半ば勢いで決めたようなところもあつて、ニュージーランドで何が見られるのか、何ができるのか、正直よく分からない。旅行を決めたあと、周囲からも「ニュージーランドって何があるの?」とよく聞かれたが、返事に困った。「羊かなあ」など力無く答える程度で、逆に質問者に「この人はなぜ行くんだ?」「みたいな妙な思いをさせたような気がする。

海外行きは新婚旅行以来2回目だが、今回は新婚旅行時と違って添乗員がいない。ちよつと不安があるが、ちよつと困るくらいが海外旅行らしくて良いんじゃないか。そういうえば前回のイタリアではひどかった。英語もイタリア語もあまりにお粗末で、一番通じたのは「日本語」。妻の失望の視線が痛かった覚えがある。今回はあれから自分なりに英語も勉強したし、流暢なイングリッシュでも駆使して妻を感心させてやるか。ニュージーランドで胸を張る自分の姿を想像しつつ、機内で眠りにつく。

9月19日

眠い目をこすりながら春先のオークランドに降り立つ。旅の期待感に胸が高まるばかりだ。しかし、税関ではまるで英語が聞き取れず、こちらからの話しかけも通じず。最終的には向こうが根負けして通してくれたような状態で、いきなり妻から若干のダウン査定を食らったような気がするが、結果として入国できていくわけだし、まあ良しとしよう。

9月20日

今日はクライストチャーチに飛べるとのことと安心。空港内のカフェでは日本の年輩の団体客が朝食を求めて並んでいる。見ていたら、店員に「パン、プリーズ」を連呼している大阪のオカン(推定)がいた。パンじゃいかなんぞ。パンじゃ。でもしつかりパンを買えているあたりは凄い。さすが大阪のオカンだ。

クライストチャーチでは町のあちこちに昨日の大雪の雪かきのあとが残っている。雪が積もることが少ないらしく、市内では子供が珍しい雪で遊んでいた。子供は世界中どこでも一緒だなとほほえましく見ていたら、雪玉を投げつけられた。これも世界共通か?

9月21日

朝から英字新聞を眺めてニュースを読んだ気になってみる。阪神のマジックがいくつになつたのか気がなるが、当然載っていない。帰国したときの楽しみにすることしよう。

今日はセスナで水河を遊覧飛行したり、渓谷を見ながら600kmのバス行程を経てクイーンズタウンへ移動する。ニュージーランドの自然を堪能できる一日になりそう。

美しい緑の牧場、草をはむ羊たち、静かな紺碧の湖、遠く白い山並み。素晴らしい自然を満喫する。あまりの素晴らしさに、まさに言葉がない。自然に対して完璧という表現は不適當かもしれないが、まさに完璧だ。これを皆見に来るんだと納得するとともに、この瞬間、いわゆる観光スポットを見て回るのはないこの旅がいたく気に入った。

クイーンズタウンに着いたら顔が痛い。聞いてみたら、同緯度に工業地帯がないので空気が澄んでおり、地上に降り注ぐ紫外線が日本の数倍なのだからという話。日焼けを通り越して火傷クラスのダメージを負っている気がする。そんな話は出発前に言っていたと、と思う。

9月22日

今日はフィヨルドで有名なミルフォードサウンドへ向かう。今日も素晴らしい風景だ。バスでの移動中、羊の群れに行く手を阻まれるが、にこやかに羊

の群れを見送る。ニュージール
ドの自然にすっかりとけ込んで
る自分に気がつく。

9月23日
残念だが明日帰らなければなら
ない。ニュージールド最大の都
市オークランドに移動する。こ
こでは昨日までと打ってかわって、
都会の街並みを味わう。オークラ
ンドの観光タワー、スカイタワー
では、むりやりな英語とヤケに近
い度胸が功を奏し、スカイタワー
からの眺望と妻からの尊敬の視線
を得ることができた。上出来(出
来過ぎ)である。

私をいい気分にくれるニュ
ージーランドをなんだかすっかり
気に入ってしまった。

9月24日
もう日本に向かう機内の人であ
る。この1週間を思い返す。かえ
すがえすも素晴らしい旅だった。
単なる観光にとどまるのではな
く、現地にとけ込んで精神的な安
らぎも得ることができた。

ニュージールドで活躍してい
る現地日本人の姿は、自分の励み
にもなった。お互いの半球で頑張
ろうじゃないか。
気になる妻の評価ポイントもそ

こそ上昇した・・・よな？
帰国後。

改めて、「ニュージールドっ
て何があった？」って聞かれたら
なんて答えよう？」と考えてみた。
牧場の緑？白い山？静かな湖？
美しいフィヨルド？・・・どの言
葉でも自分の感じたものを表現で
きないような気がした。
「羊かなあ」。今度は力強く答える
ことにしよう。

同窓会だより

二六年会
上高地・奥飛騨旅行記(続)

バスの中では幹事が用意した京
都大学の歌(百周年記念のCD)に
よる京都大学学歌の演習です。昭
和15年(1940)年記念、当時
日本音楽界の重鎮、下総航一作曲、
曲は荘重、素晴らしい歌ですが殆
ど歌われないのが残念です。

- 一番の歌詞
- 九重に 花ぞ匂える
- 千年の 都にありて
- その土を 朝踏みしめ
- その空を 夕仰げば
- 青雲は 極み遙かに
- 我らの 眼を向かへ
- 照る日は 光りたださし
- 我らの 眼に写る
- (二番略)

CDは全員に配布済み、これから
集まったときには是非歌いたいの
です。

2時前に新穂高ホテルに到着、
これからがラッキーです。2時15
分発のロープウェイに乗りました。

ロープウェイは標高1117m
の新穂高温泉駅から1305mの
鍋平高原駅までの第1ロープウェ
イと標高2156mの西穂高口駅
(本邦最高)までの第2ロープウ
エイ(2階建て120人乗り)の
2つがあります。第2ロープの西
穂高口駅(千石園地)は西穂高岳
の登山口、西穂山荘(標高238
5m)は目と鼻の先です。駅を出
れば周辺は残雪、皆残雪の感触を
楽しみました。

屋上展望台に出ました。これが
又素晴らしい。南方の乗鞍から西
方笠ヶ岳、北東、西穂高まで北ア
ルプス360度の大パノラマで
す。残念ながら「槍」だけが見え
ませんでした。2時間前までは見
えたのですが、そう百点満点と
は行きません。兎に角この感激は
雪のため乗鞍へ行けなかったから
味わえたのです。この時期3日間
とも「日本晴れ」は無いのねだ
りでしょうから。

雄大な北アルプスを背景の記念
写真、本当に得がたい記念になり
ました。

ロープウェイを下りて直ぐ、ホ
テル穂高にチェックイン、此処は
露天風呂もある素晴らしい温泉で
す。部屋に露天風呂があるスイー
ートルームに当たった幸せな組もあ
りました。

宴会場(和室)が又良い。実は
幹事の手違いで「老人ばかりだか



ら食事は立食」と言うことでホテ
ルにしたのだが、ホテル側に通じ
ていなかった。しかし奥様方は
「みんなの顔が見えるこのほうが
良い」と好評。会は盛り上がりま
す。8時になって二次会場に席を
移しました。旧制高校記念館に行
った記念に「寮歌祭をやる」と
地下のカラオケルームを貸切り、
用意した各校寮歌の歌詞カード持
参で集まった。部屋は暗い。「自
分の寮歌ぐらい歌詞カードなしで
歌え」と言ってもそうも行かず、
懐中電灯で歌詞カードを照らして
歌う組、全部暗記で踊りまわる組、
10高校歌っても限りがありませ
ん。「奥様方もどうぞ」と言った
ら「皆の知ってる歌、シューベル
トの野ばら」の声、「ドイツ語で
やるう」

歌詞カードなしで歌えました。
素晴らしいフィナーレでした。
3日目
乗鞍は通行止めは解除になりま
せん。昨夜の疲れもあり、「ゆっ

くりしよう」と9時出発。昼食前
の約1時間は高山の「朝市」と古
い町並み散策、又は「陣屋見学」
の組に分かれました。

朝市は宮川に沿った道路、古い
町並みにも一杯出ています。「飛騨
の匠」の工芸品から、名物・漬物
などなど。陣屋とは郡代役所です。
ここは高山城主金森氏の下屋敷の
一つでしたが、後に徳川幕府の直
轄地になり、江戸から代官や郡代
が来て此処に役所を置き飛騨の政
治をとりました。郡代役所が残っ
ているのは高山だけだそうです。

陣屋脇の駐車場へ11時半集合。
高山グリーンホテルに移動しま
す。田舎にしては中々のホテル、
旅行「最後の晩餐」ならぬ「中餐」
に話は弾みます。

12時半、高山西IC經由東海北陸
道に乗り、最後の目的地、御母衣
ダム湖畔の莊川桜へ向かいまし
た。莊川ICを下りて15分、御母衣
ダム湖畔広場があります。昭和30
年頃、御母衣ダム建設に当たって
湖底に沈む筈だった、樹齢400
年の桜の大木2本、「これを移植
できないか」地元の人々の願いでし
た。当時電発総裁高橋達之助氏の
熱意により実現しました。

この不可能の事業をやったのけ
た職人の話、先ごろNHKのプロ
ジェクトXで紹介されました。莊
川桜は天然記念物に指定されてい
ます。お互い電気工学の出身、先
人の偉業を偲びながらこの桜を見
ました。花が咲いていたらもっと
素晴らしかったでしょう。樹齢4

50年、何れは枯れるでしょう。広場には「莊川桜二世」が植えられ、大分大きくなっています。

莊川桜を出て莊川ICに向かって約10分、「莊川の里」に着きました。此処から約30km富山寄りに、世界遺産の「白川郷」があります。莊川村と白川村は元は一つの村でした。合掌造りはどちらにもあります。白川郷はその集落として世界遺産に登録されました。幹事の見込み違いで、此処の見学には最低30分は必要。予定の新幹線に乗れなくなる恐れがある。外から見ただけにして「説明はガイドさんがバスの中で」、トイレ休憩をIC前のバス停にしました。ここで笹岡夫妻は高山の親戚訪問の為お別れ(事実上の旅行終了)です。莊川ICを出て東海北陸道に入ります。バスは新緑の奥飛騨から美濃に向かつて快適に飛ばします。郡上踊りで有名な郡上八幡を過ぎた頃から不覚!幹事は居眠り、気がついたらバスは大きな川を渡っています。木曾川は「各務ヶ原を過ぎて」と「羽島の手前」と2回渡ります。「途中美濃辺りでトイレ休憩の筈」と思っていたら、もう羽島でした。皆さんからトイレ休憩の要求も無く。「皆さんお疲れのようだ」とガイドさんの配慮でトイレ休憩を省略、予定より20分早くJR羽島駅に3時40分到着しました。しかしこれからまだ関東・関西へ帰らなければなりません。2泊3日、遠出の二六年会。お疲れ様でした。

参加者は「8夫婦+8名」です。この内、5年前カナダ旅行に参加した人は「5夫婦+3人」(3人欠けました)です。「カナダ旅行の過密スケジュールでもやれた」と過信した幹事の計画でしたが、5年の加齢です。天候の悪戯、乗鞍山頂を省略してもまだ「キツカッタ」でしょうか?最初は「上高地へ行こう」だけでした。しかし「これが最後かもしれない」と欲張った結果、素晴らしい景色が楽しめました。それにおまけが、「くたびれもうけ」でした。幹事の不手際深くお詫び申し上げます。
石川 進(昭26年卒) 記

本部だより

洛友会改革WG
(05・9・10)の報告

洛友会幹事長 木村 磐根
(昭30年卒)

洛友会改革WGは前回4月23日に会合を開き、会費納入方法の多様化や、百周年記念事業の洛友会との一体化、教室の情報誌Cueを全会員に送付するなどの新しい方式を決め、6月18日の本部総会で提案して承認を受けました。その後その問題として、洛友会名簿の来年度の発行を目指して個人情報保護法との関係をどのように考えてゆくかの問題と、百周年記念事業を洛友会と一体化する結果、教室の情報誌Cueの発行に洛友会もその責

任を分担することになり、Cueを今後どうして行くかなどの喫緊の課題が発生しました。これらを議題として去る9月10日第2回の改革WGが開催されました。検討結果のあらましをご報告いたします。
出席者・長尾眞会長、三木弼一副会長、馬場征彦副会長、荒木光彦副会長、森本浩志関西支部長、古濱洋治東京支部長、湯川英彦関西支部総務幹事、松重和美教授(幹事)、島崎眞昭教授(幹事)、高橋達郎教授、濱田昌司助教授、後藤康仁助教授、松本博本部幹事、木村磐根本部幹事、井尻勤(百周年記念事業事務局)

開催場所・京都タワーホテル
日時・2005年9月10日(土)
11時~13時30分

検討結果の概要

1. 洛友会本部幹事会には幹事の互選により幹事長を置くことになっており、木村磐根を幹事長とすることが了承された。またこのWG会議は会長が主宰するものであるが、これまでの経緯から、当面木村幹事長が会の進行を務めることが承認された。

2. 洛友会名簿の問題

同窓会名簿の発行と個人情報保護法との関係は微妙であるが、弁護士の方々による「解釈 即答!個人情報保護」(毎日コミュニケーションズ)では、使用目的を限定すれば同窓会名簿は個人情報保護法に抵触しないという見解が示されている(湯川委員より紹介)。し

たがって、当初予定していた「名簿に個人情報を掲載する許諾のアンケート」を発送する必要はなく、名簿を印刷発行することが可能と解釈できることと理解した。2006年4月の職場移動の時期にそれぞれの個人データを印刷したものを郵送し、掲載内容の確認(許諾ではなく、確認のみ)回答を集めることになった。ただし名簿には「同窓生以外の第3者の利用禁止」と「目的外利用の禁止」は明記しておく必要がある。なお次回の名簿には名簿広告を募集しないので、予算が大変苦しく、広告のページをなくすこと、企業ごとの名簿の簡略化等を行い、紙質も再考してできるだけ印刷費の軽減を図ることなどの案が決められた。

3. Cueの件

情報誌Cueは当初から賛助会員の制度があり、これまで平成15年度では5社に賛助会員としてご賛同いただいていた。この情報誌発行の基金は百周年記念事業費によっているため基金は減少する一方である。この情報誌Cueを活用して本来の産学連携強化の実を挙げるために、できれば賛助会員数を積極的に増やすことが計画された。このために洛友会各支部の名簿広告募集のルートを利用してはどうかについて各支部の支部長を通してご検討をお願いした。しかし教室の情報誌である以上、支部として賛助会員をお願いするのは好ましくなく、京都大学電気系教室から依頼するという結論になった。賛

助会費はこれまで同様年10万円とする。
一方Cueの編集委員会が去る8月1日に吉田の電気系教室会議室で桂キャンパス、宇治キャンパスとの遠隔会議の形で開催された。この遠隔会議の形で開催された。この

桂キャンパス、宇治キャンパスとの遠隔会議の形で開催された。このときの議題の概要は下記の通りである。産学連携活動の強化の目的から、Cueの原稿の内容を見直す。具体的には企業からの寄稿(産業界の技術動向)や、賛助会員のページを作る、原稿内容を洛友会会員に読みやすくするなどである。またCueの発行元は表紙では、京都大学電気関係教室とする(裏表紙の発行元に、百周年記念事業基金からの援助を記入する)。本部HPにCueのバックナンバーをすべて掲載しているため、経費節減のため、入手不要な会員には送らないことにする。賛助会員の名簿は次号(15号)から裏表紙に印刷して明記する。
結論として、賛助会員の依頼母体を電気系教室とし、事務は百周年記念事業として行う。また、賛助会員の勧誘を洛友会(会員)が行うことにより洛友会支部活動の助けにするという考え方はやめる。Cueの内容を改革したものを12月号として発行するので、時期は遅くなるが、来年1月頃に最新号(15号)をサンプルとして賛助会員を募ることにする。

4. 洛友会の経理の問題

従来の名簿発行に伴う広告費の募集は、個人情報保護法の「目的

支部だより

中部支部総会報告

外利用の禁止」に当たるとして、名簿は発行するとしても、

平成17年6月25日(土)午前11時から、名古屋駅前名鉄グラン

5. 洛友会事務局の配置
洛友会事務局を京大内に置くことは望ましい。

議事は増田支部長の挨拶から始まり、2年ごとの役員改選期に

右について会員各位のご意見を事務局宛お寄せ下さい。

桂キャンパスは昨秋の中部支部例会で訪問

桂キャンパスは昨秋の中部支部例会で訪問



折りしも、仙台は50年ぶりのプロ野球新球団誕生に沸いており、

は初老(40歳)になります。」と懇親会で申し上げたら、先輩方

東北支部総会報告

7月23日18時より、仙台駅近郊のハーネル仙台にて第37回東北支部総会が行われました。

編集後記

洛友会本部のホームページは8月から稼働し、近況や、過去10号分の

訃報 table with columns for name, date, and age. Includes names like 田中 信高, 中堀 孝志, etc.